

Ｋ：言葉による問題ばかりと思っていたのですが、言葉以外にも様々な問題があるんですね。
次に、NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもとの活動について教えてください。

竹：「NPO 法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと」は、平成21年(2009年)より『外国にルーツを持つ子どもたち』の支援に取り組んでいます。①「くまもとこどものにほんご」(熊本県内の小中学校に在籍する外国ルーツの子どもたちへの日本語教育)②「外国ルーツの生徒と保護者のための進路ガイダンス」(高校進学支援毎年7月開催)③「外国ルーツの生徒交流会」(仲間づくり毎月3月開催)④「おるがったステーション」(学習支援と居場所づくり毎週日曜日)や「@ほ〜む」(大学生部)です。この四つの柱を掲げ活動を行っています。



(進路ガイダンスの様子)

Ｋ：日本語支援(教育)活動の中で今後の問題点や課題は何でしょうか。

竹：一番の問題は、日本語指導の自治体間格差だと思います。日本語指導がない自治体では、日本語指導についての知識不足から、先生が一生懸命小学校低学年の国語の教科書を読んで聞かせ

ているところもあります。しかし、これは日本語教育ではなく国語教育です。日本語が話せる日本の子のためのものですから、外国から来た子のための日本語指導にはなりません。

現在は熊本市や八代市をはじめ、菊陽町、大津町等 13の市町村が日本語教育を行っています。しかし、まだ言葉がわからず苦労している子どもたちが大勢いますし、これから国際化が進むにつれ、様々な地域でこのような外国にルーツを持つ子どもたちが増えてくると思います。日本語支援についての取組みは急務だと思います。

次の課題は専門の日本語教育指導者の育成です。現在、当NPO法人では、モデル授業等の研修会の開催や、教案のチェックなどの指導者育成を行っています。学校の授業内容は日々進んでいくので、日本語がわからず学習に遅れている子どもたちをいかに早くその学年のレベルに高めるかが重要です。遅れれば遅れるほどついていけなくなるので、指導者の責任は重大です。優秀な指導者が地域にも必要です。

最後になりますが、日本語教育の必要性や子どもたちの抱える問題をご理解頂き、日本語指導、学習支援、居場所やネットワーク作り、高校進学や学習相談などの支援を学校教育の中に取り込んでいただければと思います。

Ｋ：竹村さん、この度は外国にルーツのある子どもたちの支援についての貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

NPO 法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと

募集しています！

賛助会員・寄付

継続的に外国ルーツの子どもたちの支援活動を行なっていくためにご支援よろしくお願い致します。

個人 年会費 1 口=1,000 円 団体 年会費 1 口=5,000 円

口座名称「NPO 外国から来た子ども支援ネット熊本」

郵便振替口座01760-3-165967 番

日本語指導員

日本語を外国語として学ぶ子どもたちのために日本語教育専門の指導員(有資格者)を各学校へ有償で派遣しています。さらに指導技術の向上のため、月 1 回の研修会を行なっています。日本語教育専門の教師の方の参加をお待ちしています。

学習支援・ 交流会ボランティア

教科学習支援・進路ガイダンス・生徒交流会などの活動を定期的に行なっています。子どもたちに寄り添い、サポートする活動にご協力いただける方をお待ちしています。

事務局

〒861-1102 熊本県合志市須屋 3120-9

代 表：竹村 朋子 Phone：090-3986-3401

